

第62回 静岡県公衆衛生研究会 優秀演題ホームページ掲載要旨

分科会名	第4分科会	演題番号	407
題名	不法投棄は宙から見てるぞ！！ ～衛星と人工知能 結果から見える成果と課題～		
所属	東部健康福祉センター		
氏名	○鈴木優一、田上理子、金子智英、岡 大真、 大木正章、村松俊明、大橋佳奈、柏倉賢一		
要旨 (簡潔に)	<p>県内における不法投棄の発見件数は、近年年間十数件で推移し減少傾向にあるものの、不法投棄撲滅には至っていない。また、不法投棄ではないものの、事業等で発生したタイヤや金属スクラップ等を処理施設へ搬入せず、事業所の敷地内や所有地、空き地等に乱雑に長期間保管する行為（以下、「不適正保管」）も問題となっている。</p> <p>県は令和6年度に不法投棄未然防止事業を実施し、衛星画像と不法投棄現場を学習したAIを活用し、不法投棄の疑いのある場所（以下、「不法投棄懸念箇所」）として東部健康福祉センター管内（以下、「東部管内」）242箇所を抽出し、立入検査を行ったので、その結果等について報告する。</p> <p>東部管内242箇所の不法投棄懸念箇所において、不法投棄疑い11件（4.5%）、不適正保管38件（15.7%）、野焼き3件（1.2%）を確認した。また、不法投棄が疑われている「もの」は、解体現場から持ち込まれたと思われる建設廃材、廃家電が計7件、その他に廃車が2件、墓石（がれき類）、金属くずが各1件であった。</p> <p>衛星画像とAIの活用により抽出された場所は、周囲が植物等で覆われており公道からは視認できない場所が多く、開けた場所でも人目につかなければ、不適正保管を行ってしまう現場が多いように思えた。そういった現場も衛星画像を使って宙から見つけており、立体的な監視の効果が高いと感じた。また未然防止という点では、県が宙から常に監視していることを県民、事業者等に説明することで、従来にない抑止力になる可能性が考えられる。</p> <p>今回の取組は、過去の衛星画像と比較して些細な土地の改変状況まで把握していた。現在は畑などの防草シートや個人の畑の物置も拾っていたが、学習が進めば未然に不法投棄が行われそうな場所をピックアップし、先手を打つことが可能になると思われる。</p> <p>不法投棄の未然防止は普遍的課題であり完璧な対策はないが、この衛星画像とAIを活用した取組がその一助になることは間違いない。</p>		